

国連環境計画 金融イニシアチブ特別顧問

末吉

SUEYOSHI
Takejiro

竹二郎

さんに伺いました

聞き手

窪田 崇斗
編集委員

[writer] 駒崎 文男
[photo] 永田 正男

地球温暖化問題に与える影響を考えると、土木の果たすべき役割はきわめて大きい。世界的な温暖化対策について国際的な見地やビジネスの視点などから幅広く活躍されている末吉竹二郎さんに、今後の土木に対する期待・お考えをお聞きした。

2009年10月29日(木)
日本外国特派員協会

公共事業の新たなあり方が問われている

——地球温暖化や低炭素社会は、土木においても重要なキーワードになっていますが、土木が果たすべき役割についてお考えをお聞かせください。

末吉——温暖化対策をキーワードに、今までの土木のあり方を根本から見直してほしいと思います。温暖化問題は21世紀に取り組みべき最優先の課題です。

これまで土木は、国民の生活をより良くしていくという利便性の面と、国民の生命や財産を守る安全性という二つの面で、社会のインフラをつくってきました。温暖化問題は、その両

方に新しい視点を持ち込み始めています。今までは利便性のためにどんな山の中にも道をつくることを考えてきました。しかし、たとえばツバルのように国が沈んでしまうというときに、どこに道を通すかという議論は意味がありません。日本でも農業の利便性のために農道をつくってきましたが、農作業自体を壊す温暖化が始まっているとしたら、ツバルと同じことではないでしょうか。実際に、西日本、九州では高温障害による米の生産が打撃を受け始めています。こうした根本的な問題の解決を図らずして、目に見えるサービス強化だけを図るといった発想はもう許されなくなってきました。

予算も限られていますから、どこから優先的に税金を投入していくかを考えていかなければなりません。今までの公共事業に代わる方向転換、新たなあり方が問われているのです。

ビッグチャンスが到来している

——持続的な発展に向けて、今後の土木技術者はどのような心構えが必要であるとお考えですか。

末吉——金融危機、経済不況からの脱出の回復策として、世界が言い始めているのは、グリーン・ニューディールということです。従来のように公共事業でお金をばら撒き、道をつくっても、誰も利用しないというのは一時的な回復しか望みません。

そういったことの繰り返しですが温暖化をつくってきたわけで、もう繰り返すべきではないし、繰り返すことができなくなりました。地球環境を守ることで、経済や社会生活をサステイナブル(持続可能)にする。そういう社会をつくらないと将来がないという瀬戸際にあります。非常に大きな思想の転換が求めら

れているのです。それは逆にいえば、土木業界や土木技術者の方々にとっては、社会により貢献できるビッグチャンスが来ているともいえます。

そのなかで土木技術者の皆さんにはぜひ、「ロックイン効果」ということを考えてほしいと思います。温暖化問題に悪影響を与えるものをつくってしまったら、何十年もそこに居座り、悪影響を与え続けることとなります。それがロックインです。たとえば、旧来の技術で建てればCO₂を100出す工場があり、新技術を導入するとそれが80になるとします。今その旧来の工場を建てれば、何十年も

そこに居座ることになります。同じ建てるなら80のものを、さらに75のものを目指してほしいのです。これが良いロックイン効果になるわけです。土木の仕事は数十年単位、場合によってはそこに100年以上残るものですか、良いロックイン効果の土木を目指してください。

土木はこれまで市民の生命と財産を守るという非常に大きな役割を果たしてきました。温暖化対策でもぜひ、土木の力を活かしてほしいと思いますし、そのために何ができるのか、業界や学会の中でも活発に議論をしてほしいと思います。

世界、長期、弱者の視点をもっとほしい

——土木業界に携わる若い技術者や、学生に向けてメッセージをお願いします。

末吉——まず、一つは「世界の視点」をもっとほしいということだと思います。これからの日本や国土を考えるとときには、世界の視点がないと正しい判断はできません。たとえば、温暖化は世界の問題で、世界で起きていることが、日本にも大きなインパクトを与えます。日本だけ安全ということはありえません。

また、土木の仕事は数十年単位で残り、ロックイン効果をもたらします。30年後、また50年後はどうなるのか。短期的ではなく、長期的な視点をもっとほしいと思います。そのことが日本における土木の間違いをより少なくし、正しい方向に導くことにつながるからです。日本で役に立つ土木ができれば、それは中国やアジア、アフリカでも役に立ちます。日本を考えることは、実は世界を考えることにもつながるのです。

それから皆さんの仕事というのは、社会の利便性、安全性を確保するということで、非常に重要な役割を担っています。これに加えて、弱者の視点をもっとほしいと思います。社会の中で困っている人、弱い立場にある人たちへの配慮や思いやりを忘れないでほしい。真っ先に被害に会いそうな人たちのことを考えた土木のあり方を考える。それが土木の高い志ではないかと思うのです。



末吉 竹二郎(すえよし・たけじろう)さん プロフィール

1945年鹿児島県生まれ。東京大学経済学部を卒業し、三菱銀行(現三菱東京UFJ銀行)入行。その後、東京三菱銀行信託会社(ニューヨーク)頭取、日興アセットマネジメント副社長を経て、2003年国連環境計画・金融イニシアチブ(UNEP・FI)特別顧問に就任。2008年に内閣府に設置された「地球温暖化に関する懇談会」委員となるほか、TBS系報道番組「みのもんたの朝ズバッ!」のコメンテータを務める。